

令和6年度第1回「青少年部会」 摘録

- 1 日 時 令和6年8月22日（木）午後3時30分～午後5時30分
- 2 場 所 京都市役所本庁舎1階 会議室
- 3 出席者 大東委員、戌亥委員、北川委員、國重委員、竹久委員、長者委員、辻本委員、前田委員（8名）
- 4 欠席者 井本委員（1名）

5 議 題

- (1) 次期京都市はぐくみプラン策定に向けたアンケート調査結果について
- (2) 次期京都市はぐくみプランの構成案について

6 配布資料

資料1	青少年部会 委員名簿
資料2	青少年・若者の意識行動に関する調査
資料3	京都市はぐくみプランの進捗状況等一覧表（令和4年度実績）
資料4	次期京都市はぐくみプラン構成案
資料5－1	若者団体による若者の声反映プロジェクトの実施
資料5－2	児童館等におけるアンケート・ワークショップの実施について
資料5－3	居場所や過ごし方等についてのアンケート

7 参考資料

- ・ 京都市はぐくみ推進審議会条例・施行規則・運営要綱
- ・ 前回調査報告書（青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査）

事務局	<p>京都市はぐくみ推進審議会令和6年度第1回「青少年部会」を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。あらかじめ御了承いただきたい。</p> <p>それでは開会に当たり、子ども若者未来部長の福元から挨拶をさせていただきます。</p> <p>(福元部長 開会の挨拶)</p> <p>続いて、大東部会長から御挨拶を頂戴する。</p>
大東部会長	<p>(大東部会長 御挨拶)</p> <p>「こどもまんなか社会」を実現するため、「京都市はぐくみプラン」の中身を検討していきたい。テーマの1つとして、青少年の社会参画がある。青少年が社会でどのような意見を持ちそれを実現していくかが課題である。本日お集まりの各団体同士で情報交換し、連携し合ってどのようなことができるかを考えていただきたい。</p>
事務局	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第4条第3項において、当部会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員9名中8名の方に御出席いただいているため、当部会が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>ここからの議事進行については、大東部会長にお願いする</p>
大東部会長	<p>議題(1)次期京都市はぐくみプラン策定に向けたアンケート調査結果について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>次期京都市はぐくみプラン策定に向けたアンケート調査結果について、以下の資料を用いて説明。</p> <p>資料2 青少年・若者の意識行動に関する調査</p>
大東部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について御質問や御意見などを頂戴したい。</p>
大東部会長	<p>今回のアンケート調査について、郵送とWEBの回答件数の内訳は分かるか。</p>
事務局	<p>郵送178件、Web313件で、Webの方が回答件数は多かった。</p>

大東部会長	<p>それであれば、先ほどの説明にあった問25(3)「京都市に対して意見を伝えやすい方法や手段」として「インターネットのフォーム」「LINEなどのチャット」「Webアンケートに答える」という回答が多かったことは、それに対応していると言える。</p> <p>また、有効回答率が15.8%の受け止めはいかがか。</p>
事務局	<p>各種調査は5年度ごとに実施しており、青少年を対象とした調査は、他の調査よりも回答率が比較的低い。前は13%台であり、ほぼ横ばいである。</p>
大東部会長	<p>WEBの回答率の方が高いのであれば、Webでの聞き方を工夫すれば、回答数も増えるのではないかと思う。</p>
國重委員	<p>問7(2)「悩みごとや心配ごと」の中身が、「将来のこと」、「お金のこと」、「仕事や職場のこと」というのは、いつの時代でも共通することである。</p> <p>また、問7(4)「誰に相談するか」についても「家族」や「友人・恋人」となっているのはそうだと思う。</p> <p>次に、問8(2)「どのような居場所であれば行ってみたいか」の回答で、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」「好きなことをして自由に過ごせる」「いつでも行きたい時に行ける」とあるように、何かをするためにどこかに行くのではなく、何の目的がなくても行けるような施設のあり方が求められていると思う。寝転がっていてもいい、漫画を読んでいてもいい、何もせずにいるのもいいというような、児童館も含めた施設のあり様を考えないといけない。</p>
前田委員	<p>アンケート回答者の分布はいかがか。</p>
事務局	<p>細かいクロス集計は取っていないが、2ページ以降に性別年齢等の記載がある。概ね満遍なく回答いただいている。</p>
大東部会長	<p>問5(1)「どの学校に通っていますか」の「無回答」の割合が多いのはなぜか。不登校の子が多いということか。</p>
事務局	<p>不登校の方もいるかもしれないが、基本的には働いている方がほとんどだと認識している。標記の仕方が誤解を招くような仕方になってしまっていた。</p>
大東部会長	<p>それでは、通学している方とそうでない方が半々くらい、ということで理解した。</p>

<p>長者委員</p>	<p>問7（1）「悩みごとや心配ごとはありますか」の項目で、有無の数字が出ているが、本当は相談しないといけない状況にあるのに相談できていない子が増えていると感じる。</p> <p>問24（1）では、青少年活動センターを知らない子も多い。</p> <p>日頃の業務で幼稚園児から大学生まで関わっていると、小学校・中学校で不登校が増えていると感じる。「無理して毎日学校に行く必要はない」「行きたい時に行けばいい」という声が増え、通信に通う人数も増えている。また、コロナ禍を経て、人との繋がりも減ってきて、意欲がある子と意欲のない子の差、活動をする子とそうでない子の差が出てきていると実感している。</p>
<p>大東部会長</p>	<p>例えば、問7（3）で相談したことがある人、ない人との数字が出ているが、実は両極化していて、相談したことがない人は人との繋がりが少ないところまでなっているかもしれない。</p> <p>相談したことがない人は、「相談しても解決できないと思うから」、「相談するほどでもないと思うから」といった理由が多いが、本当に相談相手がいなければ相談すること自体も思いつかない。子どもたちに対しての相談体制をどう作っていくかは課題である。</p> <p>問7（4）で学校の先生、医師やカウンセラーという回答が少ない。公的な機関への相談が難しいのではないかと、思う。特に相談をしたことがない方にとっては、公的な機関への相談が難しいのではないかと、思う。そういった点をどうしていくかも考える必要があるのではないかと、思う。</p>
<p>竹久委員</p>	<p>相談相手がいないと相談するという考えも思い浮かばないと思う。</p> <p>問7（4）で、相談している方の相談相手として、医師やカウンセラーの割合が低いものの、問7（6）相談したことない人がどのような人や場所なら相談したいと思うかについては、「相手がカウンセラーなど専門家である」の割合は意外と高い。そこから見えるのは、そういったところにはなかなか触れにくい、行ってみたい思いはあるがなかなか行きづらいという方がいるのではないかと、思う。</p> <p>また、國重委員からも御意見があった、問8（2）で「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」「好きなことをして自由に過ごせる」「いつでも行きたい時に行ける」については、現代の実情を表していると思う。その受け皿になるのは、児童館、青少年活動センター、子ども食堂などの地域の居場所だと考えている。</p> <p>一方、問23から問24（3）に関連して、青少年活動センターを知っているかどうかについては、半分以上が知らないということから、認知されることがまず必要であると感じる一方で、問23では、知っている施設として、青少年活動センターや児童館等の若者に関わる施設が上</p>

<p>前田委員</p>	<p>位にきており、認知をどう捉えるか。全般的に周知が課題と言えるだろう。</p> <p>問25(1)意見反映に関しては、おもしろい結果が出ていると思う。意見を伝えたいと思う人も思わない人もバランスよく、色々な考えの方が混在している。意見や思いを伝えたいと思う方の声は比較的届きやすい、出しやすいと思うが、一方で「あまり思わない」、「思わない」という方の中に潜んでいるような声をどう拾っていくか、この統計結果からは両面を見ないといけない。それが今後の施策やプランの改定の中で反映できるといいと思う。</p> <p>問8(1)で、「家庭」が青少年の9割近くの方にとっての居場所になっていることに安心した。社会福祉協議会でひきこもりの方の相談を受けているが、ご家族には、家で安心して過ごせるような環境を作っていくってほしいと伝えている。9割近くの方が、家庭が居場所になっているという結果は嬉しいことだと思う。</p>
<p>國重委員</p>	<p>自分で専門家にアクセスするには勇気も必要で敷居が高い。自ら相談がある、と言える子はかなり力のある子だと思う。普段の話の中から、相談できない子の悩みをキャッチできるよう、スタッフの力が必要である。日頃の何でもないやり取りなどから、信頼関係、人間関係を作っていくことが必要であり、悩みをキャッチした職員が専門的な方へ繋いでいくことが必要である。</p> <p>目的があるから、また、何かをするために居場所へ行くのではなく、青少年活動センターや児童館へ行くといつも誰かがいて、話ができるといった環境であるべきである。</p> <p>対象者と専門家をつなぐような形で、伴走できるスタッフが求められているのではないか。児童厚生員や青少年活動センターの職員は非常に重要な役割を担っているが、社会的な認知がまだまだ低いと思う。</p>
<p>大東部会長</p>	<p>問24(3)「青少年活動センターを知っているが利用したことがない」方の理由で、「自分には関係のない場所だと思うから」という方に対し、どうアプローチをしていくのか。まずは知ってもらい、来てもらえばそこから色んなことができる。来てもらえていないという状況をどうしていくのかも今後の課題としてあると思う。</p> <p>問23の回答では、青少年活動センターと児童館の割合が3割強で同じくらい。問8(1)で地域に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を足した割合と同じくらいである。地域での支援という視点で、地域での居場所づくりをどう伸ばしていくのかも課題として見えてくると思う。青少年活動センターや児童館を中心として、子ども・若者とどう伴走していくのか、という点がプランの中で重要な点だとアンケート</p>

<p>事務局</p> <p>部会長</p>	<p>ート結果からも感じられた。</p> <p>先ほどの説明の中で一点訂正がある。有効回答率について、前回の平成30年度は21.4%であり、今回は15.8%であり下がっている。</p> <p>他の調査結果についても全体的に下がっている。今後こういった方法で進めていくかは検討が必要である。</p> <p>問26で「3か月に1回アンケートを募集すると意見しやすい」といった回答があるので、常時アンケートをしていると、何か答えてみようかなとなるのではないか。もう少しライトな調査を定期的の実施するのも良いかもしれない。</p>
<p>大東部会長</p> <p>事務局</p> <p>大東部会長</p> <p>大東部会長</p> <p>事務局</p> <p>大東部会長</p>	<p>続いて、議題（2）次期京都市はぐくみプランの構成案について議論いただくにあたり、はじめに現在の「京都市はぐくみプラン」の進捗状況について事務局から説明いただきます。</p> <p>次期京都市はぐくみプランの構成案について、以下の資料を用いて説明。</p> <p>資料3 京都市はぐくみプランの進捗状況等一覧表（令和4年度実績）</p> <p>ただ今の事務局からの説明について御質問や御意見などを頂戴したい。</p> <p>実績として主な成果に数字が書かれているものと、こう取り組んだ結果、こういった成果に繋がったと記載されているものがある。数字だけのものについて評価はいかがか。例えばNo.1705の青少年活動センターの居場所事業数25件はいかがか。</p> <p>それぞれ目標指数を立てているわけではないため、この数字が適切かどうかという判断は難しい。一方で、アンケート結果でも分かるようにもっと居場所が欲しいという声は聞いているため、もっと拡充していく必要があると認識している。</p> <p>例えとして、居場所事業数を挙げたが、No.1708の青少年活動センターの地域交流事業数も「57」という数字の成果だけではなく、その課題も合わせて記載いただけると、こうした課題があるから次のプランではこういったことが考えられるのではないか、という議論がしやすい。事務局の方で検討いただきたい。</p>

事務局	<p>No. 1707 に関して、青少年活動センターが自宅から遠いという意見もあるが、青少年活動センターがないエリアにセンター機能を持ち出すアウトリーチの取組を進めている。西の方にはセンターがないことから、洛西に出向いたり、右京区に出向いたり、地域のニーズに合わせて対応している。</p>
竹久委員	<p>市内には14行政区・支所があり、7つの青少年活動センターでは十分にカバーできていない。センターまで遠い地域も一定ある。各青少年活動センターでは、そのセンターが立地する区に加えて、もう1か所担当区決め、アウトリーチの取組を模索し進めている。</p> <p>地域の中で多様な居場所づくりを、地域の方と協力しながら取り組んでいる。この報告書に記載の時点では、向島、洛西の取組になっているが、現在はその他の地域でも取組を進めている。</p> <p>先ほど発言のあった、居場所事業数や地域交流事業数について、各事業が同じような共通の課題を抱えているかということとそうでもない。代表例であれば示せるとは思う。</p>
大東部会長	<p>他に意見がなければ、こられの進捗状況を踏まえつつ次期プランを検討いただき、構成案について意見をいただきたい。</p>
大東部会長	<p>それでは、本題のはぐくみプラン構成案について、事務局から説明いただく。</p>
事務局	<p>次期京都市はぐくみプランの構成案について、以下の資料を用いて説明</p> <p>資料4 次期京都市はぐくみプラン構成案</p> <p>資料5-1 若者団体による若者の声反映プロジェクトの実施</p> <p>資料5-2 児童館等におけるアンケート・ワークショップの実施について</p> <p>資料5-3 居場所や過ごし方等についてのアンケート</p>
大東部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、御質等を頂戴したい。</p>
竹久委員	<p>事実確認だが、資料4 II ページ、第2章2(5)イに記載の内容と、P. 10 2(5)イに記載の内容はどちらが正しいか。</p>
事務局	<p>P. 10 が正しい記載である。</p>

國重委員	P. 5【具体的な施策】に児童館学童連盟と記載があるが、団体の正式名称としては、前に「京都市」が付くので修正いただきたい。
竹久委員	同じくP. 5【具体的な施策】の箇所に特定の団体との連携を具体的な施策として記載いただいているが、団体を限定して連携するというより、「〇〇等の若者団体」など、多様な団体が記載されている方が良いと思う。
事務局	ただ今両委員から頂いた内容を踏まえて、反映したい。
大東部会長	P. 6「3居場所と出番」について御意見をいただきたいがいかがか。
竹久委員	居場所の説明は記載されているが、出番の説明がもう少しあってもいい。例えばどんなことを想定しているのか見える方が受け止めやすい。
大東部会長	確かに、居場所に関してはかなり書き込まれているが、出番に関しては書き込まれていないので、検討いただきたい。
國重委員	<p>児童館は学校とは異なる施設である。京都市では、児童館事業と学童事業を合わせ、2つの役割を1つの施設で実施しているのが特徴である。そのため、全ての児童館が子どもたちにとって敷居が低いものでありたいと思っている。多くの児童館で意見箱を置いて、願いや思いといった子どもの声を拾い上げている。また、日々の事業や取組にも子どもの意見を反映させている。</p> <p>一方で、私もそうだが、子どもの意見を自然に聞くことができていないと感じている。子どもが利用する施設だから、子どもの意見を聞くのは当たり前だという風土を醸成する必要がある。また、子どもの意見を聞くのも意識的にしないと忘れがちになる。また、意見の聞き方も大人の意向に沿ったものではなく、意識を変えていく必要がある。</p>
大東部会長	今話を聞き、具体的な施策の1つ目の記載について、「居場所の充実」と記載があるが、ここに「出番」も入れてはどうかと思う。
辻本委員	職業訓練や学生の就職支援が中心に取組を進めている。就職支援の一環で各学校訪問をし、ハローワークの利用を学生に呼びかけているが、インターネットの普及により、ハローワークを利用する人が非常に減ってきているという現状である。
大東部会長	2章では具体の施策が列挙されると想定され、その中で記載もされると思うが、P. 6の「地域の施設・資源を活かした子ども・若者の居場

事務局	<p>所と出番づくり」に該当することになるのではないか。</p> <p>若者のキャリア教育の中で、今後のライフプランをどう考えていくか、という点で京都若者サポートステーションの運営を京都労働局と一緒に進め、中々仕事に就けない若者の社会参加という観点で取組を進めている。</p> <p>ハローワークに直接結びつけるというより、もう少し手前段階の支援を京都市ユースサービス協会とも連携しながら実施している。プランの2章ではそのあたりも施策とともに記載できると思う。</p>
前田委員	<p>社会福祉協議会は各行政区ごとに1か所区社協がある。いくつかの区社協では、ボランティアなど地域と連携しながら誰でも来れるような居場所活動を展開している。その中で、若者との連携では、山科区では青少年活動センターと連携した取組を進めている。また、下京区では高齢の方向けの取組として、e-スポーツなど大学生の方と一緒に実施している。</p> <p>ひきこもりの方もいっしょに参加しており、そういった出番が一つ一つ積み重なり、自信にも繋がっていている。身近な社会福祉協議会の事業で、若者とも一緒にでき、引きこもりの方の出番になれば良いと思う。ボランティアなどの経験を一緒に積めるように取り組むことができたら良いと思う。</p>
大東部会長	<p>現行のプランでも若者のボランティア活動に関する記載がある。ボランティア活動が、地域への愛着や地域活動の展開へどのように結び付けていくのか、次のプランの中でも見えてくれば良いと思う。</p>
國重委員	<p>先ほど部会長からも意見があったが、P. 6【具体的な施策】の1つ目は、居場所と出番の充実という記載にしても良いかもしれない。</p> <p>青少年活動センター、社会福祉協議会、児童館それぞれが様々な取組を行っているが、居場所と出番という観点で、様々な団体同士の連携をプランに位置付けていただければ、取組や事業がさらに良いものになる。</p>
大東部会長	<p>「若者を支援する各団体同士の連携の推進」という文言を是非入れていただきたい。</p> <p>一人の子どもがだんだん大きくなり、思春期を経て青年期を迎えていくことになる。対象の子どもは同一人物であるが、年代によって利用する施設や団体が異なることで支援が途切れることのないよう、団体同士がどう連携の体制を作っていくのかが必要ではないか。そういった点を主な取組として入れていただきたい。また、そのためにはどんな事業を進めていくのかも検討いただければと思う。</p>

北川委員	<p>少年補導委員会で子どもと関わっている。少年補導委員には、元々学生部があり、私はそこから少年補導委員になった。今は学生部が少なくなり、市内12の警察署の内、学生部があるのは2、3である。夏には小学校5、6年生、中学1年生を対象にサマーキャンプを実施したり、地元でこどもフェスティバルを開催している。「知恵は経験の娘」という言葉を大事に、警察・消防など色々な機関と連携しながらその時できることをするのが大事である。</p>
大東部会長	<p>体験活動の重要性、また体験活動の中でどのような出番を作るかが大事だと思う。</p>
戌亥委員	<p>P T A活動では、多様な立場、働き方、考え方等がある中、決められたことをやるのは難しいが、できることがあればやるという気持ちを持っている人がほとんどである。例えば、会議には出れないけれど、イベントのお手伝いはできるといった方々がいる。それぞれの気持ちを大事にして、参加できるような出番があればいいと思う。それぞれが何か貢献できる機会を大小問わず作るのが大事であると思う。やっている大人が楽しくやるのが大事であり、大人がそうできていないと参加する子どもたちがかわいそうである。</p> <p>また、良いところも、悪いところも認めあえる安心安全な場所を作っていけば、何か貢献したいという気持ちも出てくると思う。</p>
大東部会長	<p>P. 6イメージ図について、「地域の施設・資源を活かした子ども・若者の居場所を出番づくり」とあるが、地域資源同士が連携しないといけないし、また地域資源自体も様々ある。そうした地域資源をどのように発展させていくかも含めてイメージ図を作っていただけではないと思う。それぞれの地域資源が居場所を作るということだけではなく、それらは繋がっていないといけない。今ある地域資源を連携する、再構築するためにはどういったことが必要か、また、そのためにはどのような取組が必要かということも入れていたければと思う。具体的な取組も書いていただくと良いと思う。部会に参加して感じていることは、各団体が連携できていないことが居場所や出番づくりの根っこにねている。そうした点をプランに記載できればと思う。</p> <p>次回の部会では第2章のもう少し具体的な部分を議論したいと考えている。</p> <p>それでは、予定の時間となったので閉会とする。</p> <p>事務局へ進行をお返す。</p>
事務局	<p>以上をもって、第1回「青少年部会」を終了する。</p>